

## ウイグルの祖父母

### 子育てに於ける役割

Hayredjan Osman 中国新疆大学中文系

中国ウルムチ市勝利路14号 830046

ウイグル人社会で祖父と祖母は子育てに於いて重要な役割を果たしている。これは伝統的な習慣であり、大昔から形成されてきた価値観に基づいている。現代社会においても尚、このウイグル族の子育ては有効であると思う。

そこで、本小論では、ウイグル人社会における祖父母と子どもの関係を、子どもの養育という観点から以下に紹介してみたい。

1. 青年男女の初婚年齢が低い。男性は平均17才か18才、女性は平均16才か17才で結婚する。近年、《婚姻法》により、青年男女の結婚年齢が変化してきた。結婚式の伝統的なやり方から見ると、結婚式にかかる費用は男女両方の両親が支払ってくれるのが普通であり、結婚式の用意及びその実行にも両親と祖父母が出席するのが常識である。青年男女が結婚した時点では、独立して生活する能力が低く、経済力もない、そこで両親と祖父母の支配に従う。このような結びつきから、祖父母のウイグル人家族に於ける高い地位が定められる。

2. 青年男女が結婚した後、新婚夫婦と彼らの両親はともに早く子供を得ることを希望する。ほとんどの家族で青年男女は結婚して、一年から二年のあいだに、子供を有するようになる。その頃でも夫婦はまだ若く、生活経験も浅く、赤ちゃんを独立して育てることができない。その上、嫁は初産の赤ん坊を出産後、すぐ実家に戻り、赤ん坊が生後40日になった日に夫と夫の両親の迎えで婚家に帰ってくる。この40日の間、妊婦はほとんどの場合、静養することで過ごし、赤ちゃんは祖母が見守ってくれる。婚家に帰ってくると、夫の母親に赤ちゃんの面倒を見てもらう。赤ちゃんが歩けるまで、父親は殆ど子どもの面倒を見ない。近頃、都市ではこのような状況が変わってきて、父親も面倒を見るようになってきた。

3. 新婚夫婦は親からの独立を慌てず、たいいてい家族は三世代の人々が一緒に暮らす。兄弟が多い家族では、一部が長男と一緒に住む。大部分の家族で老人は末っ子と一緒に生活する。同居の場合も別居の場合も、祖父と祖母は健康で生活さえ保障されていれば、孫達を三才から四才まで、又はもっと大きくなるまで育てるのが普通であり、一部の小家族の一番目の子供はたいいてい祖父母が成人になるまで育ててくれる。家族で保母を雇って子供の面倒をみるのは、近年、都市で広がっていますが、ただし大部分のウイグル人は農村と郊外に住んでいる、都市に住むウイグル人の大部分を占める商売人、手細工人、季節労働者の中ではそれほど普及していない。今のところ、子供を幼稚園で保育しているのは、大都市の役人、会社員、学校に勤めている教職員だけに限られ、すなわち大都會では子供達の幼稚園での保育が相対的に普及している。まとめてみれば今日も、ウイグル人社会の家族は子供が入学するまで祖父母により育ててもらうことが主要な地位を持っていることに違いない。

4. 青年男女は結婚し、自分の子供を持った後、彼ら自身だけでなく、夫婦の両方の親及び祖父母もともに、彼らの婚姻関係に非常な心使いをする。もしも夫婦が離婚するようなことになれば、孫の心に致命的な傷をつけると見なす。そのために家族で少しでも激しい矛盾が生じると、子供を孤児になさぬように、大きな争いを小さくし、できるかぎり家族の崩壊を避けるように努力する。仕方なく離婚した場合はかれらの子供は祖父母に続けて育ててもらえる。離婚した男性あるいは女性が再婚すれば、子供達が継父あるいは継母から不当な待遇を与えさせないために、祖父母はその子供を自分で育て、全ての愛を与えて、子供が心理上いつも良い状態を保持できるようにする。ある祖父母は孫を一定の年齢まで扶養する、ある祖父母は孫が成人に達するまであるいは自分がこの世から去るまで育てる。

5. 祖父母は息子に嫁をもらった、あるいは娘を嫁がせた、あるいは孫を得た後、日常生活の振る舞い方が大きく変わる。彼らは自分が不惑の年に至ったと思い、外相や話し方、自己の行為に特に注意する。性格も落ち着いて穏やかになる。子供あるいは孫の前で煙草を吸ったり、お酒を飲んだり、不当な事を絶対に行わない。訳の分からない事に怒ることもないし、子供達の前ではお互いに口喧嘩することもない。これらは子供達の心に祖父母に対する威信がつけられることの要因になるだろう。

6. 祖父母は家族の経済状態に心を遣い、家族の収入向きのことを常に気遣っている。大きな病気を持たなければ、小さな病気のために各種の働きによってお金を稼ぐ機会を延着させない。毎日、早く起き、夜は遅く寝たりして、規則正しく律動的に本人の仕事に従事する。収入の減収による家族生活に及ぼす困難を一番に心配し、それとともに全社会的な経済状況の低下も気にする。そこで少しも怠けないで絶えず働く、祖父母のこのような労働を愛する精神と勤勉でまじめな品格は子供達の敬意を強め、孫にも小さい頃から働き好きで頑張る仕事をする考え方を身につけさせる。

7. 祖父母は家族の和睦的な付き合いと相互友愛に全部の精力をそそぐ。

普通は経済の支配権は父親あるいは祖父に握られ、家族の収入と支出は彼らにより計画的に調節される。生産労働は家族の成人になった者により集团的に完成され、男性は外の体力を必要とする仕事をし、女性は家庭の仕事を分担する。家族の仕事と家事は伝統的な慣習によって分けられているが、一般にはお互いを較べて争うことは生じない。仕事や家事を行うときは時間的なために特に注意し、同じ時に働き、同じ時に休み、同じ時間に一緒に食事をし、祖父の導きで神に祈る。これは子供達の集团的な観念と時間観念を強化していく。

8. 祖父母は大部分の時間を家の中で過ごすのが一般的である、特別の出来事がないかぎり、遠方に出かけたり、夜遅く帰ったりせず、殆どの時間は孫と一緒に過ごす。昼の仕事が終わった後、休みの時間、風が吹いたり、雨が降ったりした日、永い冬は孫と一緒に囲炉を囲んだり、暖かいオンドルの上で、おもしろい物語を話したり、先輩達の歴史や悲しい経歴を説く。また親戚や友人及び社会に於けるいろいろな事情について語ったり、自身の故郷を賛美したりして楽しむ。ウイグル人は家を建てるとき広い部屋を好む。ほぼ全ての状況下で、特に冬は未成年の子供は親と一つの部屋で寝る。冬の夜は非常に長いので、両親または祖父母は子供達に暮らした辛さや、困ったときに他人から助けて頂いたこ

とや受けた恩恵などについてよく話し、幼い心に他人の優しさ先輩達の辛苦にまけない精神を憶えさせておく。祖父母はいつも子供達の頭と背を優しく触れてあげる、子供達も祖父母にマッサージなどをする。これもまた子供に対しての教育であり、彼らに幼少の頃から老人への心使いと愛護の精神を身に付かせる。知識を持つ祖父母は子供達にいろいろな学問を教える、またある老人は手細工のやり方を学ばせる。

9. 祖父母は入学前の子供達にできるだけ仕事をする方法を教える。例えば掃除をさせたり、碗を洗わせたり、庭鳥、家畜に餌を与えさせたり、溝から水を汲ませたり、お隣に借り物に行かせたり、または返しに行かせたり、草を拾わせたり、果物や野菜を収穫して売らせたり、牛と羊を放牧させたり、小麦の穂を拾わせたり、これら日常生活の些細な仕事を通して、彼らの自覚性と独立性を引き出すに違いない。

10. 祖父母は時に子供達を連れて親類や友人の家を訪ね、ある時は数日間そちらの家に滞在し、客人として接待される。杏が成熟した頃は皆と一緒に杏園に行き、杏を味わいながら風景を見て楽しむ。畑の瓜が成熟したら、皆を連れ食べに行く。数日間の遊びで子供達は天国のような生活を楽しみ、喜びと楽しみの気持ちで心がいっぱいになる。そして子供達は生活を愛するようになり、親戚と友人に対する感情と理解を深めていく。

11. 子供が七才に達した際、祖父母は彼らに知識またはある種の手細工を習わせるために工夫する。なるべく学校に入学させるが年季奉公に出すケースもある。これは”後生に黄金を遺すより知識と手細工を遺した方が良い”という昔からの伝えられてきた諺が彼らの心の中に深く銘記されているからである。

12. 祖父母はあまり子供を殴ったり、叱ったりはしない、もし子供が何かの過失を犯したとしても、彼らは優しい話し方で子供を教育する。子供の行為に対して慌てて叱らず、自分よりも年長者に来ていただき懇談を通して、子供達は過ちを悟らせるのが一般的な方法である。両親または他の子供の前で直接的に非難することはしない、そうすると子供は逆に忠告が聞けなくなると思っているからである。注意する際も、ポイントに気を使い、話すべき事だけに言及する。どうしても話を聞いてくれないときは、適当な厳しい警告が与えられる。

13. 子供に対して、祖父母は彼らの需要を満足させる。子供達の健康と衣食住を一番大事にして、全身血を子供に向ける。但し子供を溺愛することなく、子供の過度の要求を満足させる事はしない。彼らは子供の自立心を培うための工夫をする。子供が通学する際には、風が吹いても、雨が降っても、厳しい寒さの冬でも子供達はいつも自分達の仲間と一緒に通う。このような訓練は苦しさで耐える頑強な精神と何事も独力でやり遂げる能力を身につけさせると思っているからである。

14. 子供が学校に入学すると、祖父母は先生と協力して学校の教育に力を入れる。いつも子供達に学校での規則と制度に従い、先生の話をよく聞き、先輩を尊敬し、学習に努力し、学生同士仲良くしお互いを尊重するように要請する。どのような事情があっても学校の短所や先生の欠点について、子供の前では絶対に触れない。できるだけ先生を讃え、学習意欲を引き出すのに役立つ事について話し、子供が学習に興味を持つように導く。

15. 祖父母はできる限り、子供達の家庭において遊びたい気持を満足させるように配慮する。特に登校前あるいは放課後や休日及び祭りの日は、祖父母は子供達が彼らの仲間と気が済むまで子供時代の楽しみを味わうことを許可する。

彼らは子供が遊ぶときに衣服を汚すことに頓着せず、子供が泥だらけになって遊ぶことを制限したりしない。子供は溝の中の生水を飲んだり、仲間からもらった食べ物や、仲間の親からもらったおやつを食べることに、そんなに抵抗がない。子供を仲間と遊ばせないで、家の中に閉じこめておくと、その子供の性格は独りぼっちなものになってしまい、将来社会に適応する能力が不足するとみなされた上で、子供達は学習、家事、娯楽を適切に合わせて養育するべきであると提唱するのは通例である。

16. 勉強のこと於いて祖父母はあまり強制しない。自主的に勉強することが大切とみなされている。前途は自分の努力によるものであり、学校の成績が良くなく、大学に入学できなければ家に入れなかったり、殴ったり、叱ったりするのは子供を教育する効果的な方法ではないとみなされている。子供が大学の入学試験に通らなかったら、祖父母は彼らの行く先について工夫してあげる。何かの事情で、大学を途中で辞めたり、退学させられたとしても、祖父母は子供を叱ったり、責めたりしないで、度量を大きくして温かい手を差し出して子供達の生活を整え、結婚させてあげたり、彼らの子供の面倒を見てやったりし、命の続く限り子供達に愛情をそそぐ。ウイグル人は大学に入学できなかったら、恐くて家に帰れなかったり、退学してから家に帰れない子供はあまりいない。また自殺などということは全く見られない。そのうちに子供は反省し、自ら将来について考える。彼らは両親、祖父母に頼らず、己の力により、両親、祖父母の恩に応えるために努力するに違いない。

17. ウイグル人の家族は夫婦間、子供が父母に対して、父母が祖父母に対しても直接に名前は呼ばず（近年、都会にを於いては変化してきた）呼びかける際には子供のお父さん、お母さん、おじいさん、お祖母さんなどに対応する言葉を用いる。このような呼びかけ方は子供に対して自然に老人に対する敬慕の気持を生じさせる。大人は子どもに非常に偉いとみなされ、心の中から大人を尊敬する。大人の話は格言のように子ども達を勇気づけていく。家庭に於いては子どもと大人の間には明らかに区別があり、子どもの中の大人のイメージは非常に高く、大事な地位を占めている。

18. ウイグル人社会では”家族”の観念は大変に強い。結婚年齢に達した青年男女は（大病あるいは精神病）さえ持つてなければ、結婚する。結婚する時点で双方の経済状態が問題にはなるが、決定的な要素にはならない。婚姻を結ぶ際に、金持ちは同じくらいの経済状態の家族と結婚するが、これも絶対的なものではない。特に貧しい者は家族の状況によって、孤児あるいは独りぼっちな人間と配偶者になる。

ウイグル人は結婚の年齢に達しても結婚しない男女を特に嫌う。一般に村では子孫が多い、お互い交際が多く、何世代も人が同居している家族は、きわめて尊敬され、威厳もある。年長者を大切に、子どもを大切に養育する家族は、全村の人々が特に敬愛し尊敬する。これとともにその家族の祖父母は村の中の中心的人物として、非常な威厳を持ち、村人は彼らの導きを尊重する。子孫にとって祖父母は優しく、しかも一番威厳のある人である。子孫は祖父母に従順で、決して曖昧な態度をとらず、面前で煙草やお酒を飲んだりすることはありません。また異性の友達とふざけたり、冗談を言ったりはしない。人々はこのような家族の人と交際することを望み、そのような家族の出身者と婚姻関係を結ぶことを望む。農村では、両親が離婚したり、祖父母の許可を得ないで別居したり、先輩を尊重しなかったり、老人の財産を自分の者にしたりする青年を人々は嫌う。

19. ウイグル人社会の家族に於いて、きわめて強く重要な位置を占める倫理観がある。祖父母、両親、子ども、孫達などが集まる場合は煙草やお酒を飲んだりしない。成人は下着のまま寝室から出ることすら遠慮される。お風呂や祈りのために身を浄める際にも他人に気づかれないようにする。夫婦の間でも人前で愛しているなどの話はしない、接吻をしたり、手に触れたり、一緒に寝ているのを見られたりしない。男と女が対面した時、抱き合ったり、握手もしない。早朝、子どもが目覚める前に大人は起きなければならない。食事の時、まず祖父が食事を始める、祖父が祈りを始めたら他の者はそれに従う。食べ物の配膳は祖母の仕事です。縫い物、洗濯、掃除などの家事は母親の仕事になる。後輩は年長者の前を横切ったり、大人の話に割り込んだり、腰を伸ばしたり、くしゃみをしたり、足を組んだり、鼻水をかんだり、唾をはいたりまた痒いところを掻いたりしてはいけない。食事の際、早く食べても遅過ぎてもいけない、食事を残してはいけない、地面に落ちた نانのくずやご飯粒を踏んではいけないとされている。

他人のうわさをしたり、亡くなった人の悪口はALLAHの前で、罪になると思われている。隣人が借り物に来たときに、故意に貸さなかったり、有るのに無いなどと答えたりすると、そのものが本当に失われてしまうと信じている。親族、隣人、友人とは和睦に付き合い、人と人の中で憎しみを持たず、嘘を言わず、傲慢でなく、欺かないなどの振る舞いが美德と見られている。以上の習慣、考え方は子どもを養育していく課程で非常に大きな作用を果たしてきた。

20. 祖父母及び両親は孫の誕生を特に心待ちにしている。子孫を持たないことはもっとも不幸なことである、嫁に娘が生まれても、息子が生まれても、その赤ちゃんが病気になるいは障害児であっても、すべてはALLAHから頂いた命であると信じている。息子が家族の柱、相続人とされる。女性は家事が巧みなことが良いとされる。娘の幸せは嫁いだ後、夫の家族と仲良く暮らしていくことがもっとも美德とされる。もし生まれた赤ちゃんが障害児でも心から愛され養育される。決して放棄されたり、虐待される事はない。もしそのような事をすれば、ALLAHの神に許してもらえず、この世を去っても天国の門に入れないと信じている。ウイグル語では《子どもは家族の楽しみである》、《子どもを有する家族はbazaarである、子どもを持ってない家族は墓地となる》という諺がある。これは子供のある家族は賑やかで活気に溢れているが、子どものない家族は墓地のように寂しく荒涼としているという意味である。Meccalに参拝してハジ(hajji)となるのはウイグル人一生の最大の願望であり、善事する最大の機会でもある。ただし、《結婚年齢に達した子どもが未婚の場合、親がMeccalに参拝してもALLAHは受け入れてはくたさらない》という教義に従わなければならない。この宗旨は子育てに巨大な影響力を与える。子供らは先輩から頂いた至るまでの優しい配慮と保護を体験した上で、年長者に対して彼らの希望に応えるよう、一生懸命に努力し良き人となり、親の恩を返すようになるだろう。このような付き合いを通して、両親と子どもとの感情はより親密になるだけでなく、孫達の将来の暮らしにもきわめて積極的な意義をもたらす。

21. 多数の祖父母は祖先あるいは故人から遺された学説や倫理観または宗教的な内容の古籍を珍藏している。この中には Ahmed Yasavi・Rabghuzi・Muhamed Sadik・Kashgari・Abdukadir Damallaなどの著作と Shamsul Khabusの《Khabusの倫理書》Shidiの《Griistan》(花の野原)《Bsutan》(緑野)・Jalalidin Romiの《Masnavi Shirip》(Shiripの双行詩)・《Karan》・《Habudyak》(Karanの選篇)・《Hadis》(Muhamed天使の聖訓)・《Sahihul Buhari》(Sahihul Buhariの聖訓実録記)など有名な本が含まれている。その中の倫理的な思想は祖父母を通じて子孫の考え方の形成に影響を及ぼして彼らの幼い心に良い種をまいておく。人間を教育する流れでこのような伝統的な教育も重要な役割を果たしている。

22. 祖父母は親族、家族の構成員、知人など多ければ多いほど良いと感じているし、お互いが誠の愛をこめて、和睦的に付き合い合うことを期待する。解放(1949年)の前では田舎の人々は村長や護衛などの役人の厳しい圧迫を受け、多くの人々は土地もなく、頼る人もなく、非常に貧しく寂しい生活を営んでいた。独り身の女性は軽蔑されたり、虐められたりというケースもあった。そういうわけで人々は親族間の結びつきに工夫をこらした。村の中でもっとも人気があり経済力がある人を頼りにして、その人物を非常に尊敬する。生活上にどのようなことでもその人と相談し、またその人の指導の基で生活がうまくいくようになる。その人物もこのことは本人の責任だと当たり前のように思い、できるだけの力を出して、弱い立場の人々を助ける。村人はお互いに助け合い、和睦な気持ちでともに頑張るようになる。このような団結と友愛の気が満ちあふれた社会で育てられた後輩は親族や友人などの付き合いと故里の栄誉を保持することに特に注意し、尊敬すべき祖父母の体裁を汚すような事はしない。

23. かつて、幼稚園が無い時代は、幼児は家族が面倒をみていた。少数の金持ちは保母を雇って幼児を育てていたが、その他はたいがい両親、祖父母、姉、兄などが世話をしていた。そのため児女と両親の関係はさらに強くなって行くに違いない。なぜならば老人は彼らのために子どもを暖かく見守っている、このことは何事にも代え難いほどの感激と感謝の心が満ちてくる。

24. 殆どの若者は、両親と同じ所で働き、一緒に住むのを好む(最近、都会では若者は別居する傾向が強くなってきた)。またできるだけ同じ郷、県、市、地区で同居するのを望む。ウイグル自治区の属地での就職を望むのはウイグル人の特色でもある。ある初歩的な概算と実際的な状況によると、ウイグル族のウイグル自治区で定住する割合は特に高く、中国の他の省と自治区で暮らしているウイグル族は非常に少ない。ウイグル社会では年長者に導かれ、彼らの近辺で暮らす現象は子孫が年長者からの影響を受ける、良い条件を提供する。

政府機関で勤め人として働いたり、商売のため外地に住んでいる若い男女は、休日、祭日、学校が休みの時に子どもを連れて両親の所へ行く。自身が忙しくて行くことができない時は両親に来てもらい、三世代と一緒に暮らすケースもある。若い父母が出張したり、他の仕事で外出したり、病気になったりあるいは罪を犯して収監されたりした時点で、子どもは祖父母の家で暮らすようになるが、祖父母は心から喜んで孫の世話をする。

25. ほとんどの若い父母の子ども一人、あるいは何人かの子どもは祖父母のもとで育ててもらう。

ある家族では一番年上の子ども、あるいは別の子どもと一緒に暮らすか、または祖父母に養子としてあげる習慣もある。《新疆統計年鑑、1995》という本では1994年にウイグル自治区にいるウイグル族の人口は770万で、自治区の全人口の47.1%を占め、全自治区での農業に従事する労働力の61.3%がウイグル人であると記載されている。すなわち上述した農村に居住しているウイグル人の大部分の家族は三世代と一緒に暮らす習慣はまだ保持されている。このような家族では大人になった若者が畑の仕事に従事するが、年を取った者は未成年者の世話をする。町や都市にすむ共稼ぎの家庭では、祖父母が退職していれば孫の世話をする。農村では部屋が広く大きく建てられている。夜、祖父母と孫は一つの部屋で寝て、語り合ったり、老人が自分の経験したことについて話してあげたり、孫の身体を触れてあげたりして、お互いの友情と愛情を交換し合い、ともに親密さが益してくる。

祖父母に孫の養育をしてもらう際に、経費について直接的な話し合いはしない。すなわち、若い両親は祖父母に「孫の世話をしてください、毎月これ位払うつもりです」とか、祖父母の方からも「孫の世話をするから、毎月これ位払って下さい」などの話をする事はない。祖父母はまるで自分の子どもを見守っているように喜んで孫の世話をする。病院に連れて行ったり、衣服を買い与えたりする。これに対して、若い両親は精算という形で祖父母に直接的に費用を渡したりはしないが、隠して渡したり、別の名目をつけて間接的にお金を出す。その場合も「孫の養育費」と言わず「これはちょっと少ないけど、何かのためにお預かり下さい」などと、家族の行事に合わせいろいろな名目をつけてお金を渡したり、衣服を買ってあげたりする。

26. 祭日、大人が子孫にみやげ（お年玉に当る）として小遣いを与える習慣がある。ラムダン（Ramudan）祭りとコルバン（Korban）祭りでは子どもや、孫、親戚の子ども友人や近所の子供達にも小遣いをあげる。この小遣いをYetlik（祭りのという意味）と言う。子供らは祭りとYetlikをもらうことを楽しみに待っている。普通Yetlikは祖父から頂くので、祭日は祖父が家に來られるのを待つが、待ちきれなくて祖父のもとに自分から行くこともある。このようなことも孫と祖父の親愛の情を深めることになる。Yetlikとして小遣いをあげるほかに、衣服、玩具、食べ物も用意しておく。

27. ウイグル人は赤ちゃんに名前を付ける場合、亡くなった両親や祖父母や親しい親族の名前をそのまま付ける習慣がある。数十年前はそのような名前の付け方が一般的であったが、近頃は徐々に減少してきた。ある家族では祖父母はまだ生存中でも、自分がもっとも好きな孫に自らの名前を付けることもある。また父親は、赤ちゃんが生まれる前、また生後一年以内に、祖父が亡くなったら、その祖父の名前を付ける習慣を保持しています。伝統的な見方によれば、祖父の名前を相続した男の子は《望まれる子》と見られ、別の兄弟よりさらに良い待遇が与えられる。このような子供を叱ったり、殴ったり、その子の心を傷つけると、亡くなった祖父母の霊魂が困惑し、気分が悪くなると思われる。

28. 祖父母から養育して頂いた子供を《相続される子》と呼ぶケースもある。このような子供は威信を持つ望ましい子と見られる。人々は、このような子供を《親が育てくれた》、《親が名付けてくれた》、《親の飯を食った》、《親に手伝ってもらった》などと言う。この習慣は若い父母に《祖父母に養育して頂いた子供は威信を持つ良い子になるであろう》という考えを持つに違いない。

29. 人々の中で夫が妻と離婚したいとき、この妻はこの部分は翻訳されたものが読みづらい（解らない）ので入力してません。

30. 一般的に年長者が病気になり入院し、手の施しようが無いような場合は自宅に帰り、自宅で最後の時を迎えることを望む。

致し方なく病院で亡くなった場合は、速やかに遺体を自宅に連れ戻り、葬儀を行う。病院内で葬儀を行う習慣はない。葬儀の際は全ての親族、隣人、知人、友人に知らせ、告別式に来て頂く。孫と親族の男性は腰に白い布をつけ、女性は白いスカーフで頭を被い、声を出して泣き故人との別れを悲しむ。子供は7才以上の者が腰に白い布をつけ哀悼の意をあらわす。女性、孫らが遺体を囲み、遺体を抱いたり、顔を近づけてりして故人との別れをする。その際、告別式の謡曲を歌いながら、泣いて告別する習慣がある。遺体を墓地に送る時、7歳以上の男の孫、15才以下の未婚の女の孫、親族の男性が遺体の前を整理して泣きながら墓地に向かう。亡くなってから7日目、40日目、1年目に記念する行事（ ）が行われる。その場合も故人をしのび絶えず泣きながら行うことが多い。葬儀をこのように行うことによって子孫等にきわめて深い印象を与える。子孫は亡くなった年長者が本当に偉く、人望もあり、尊敬すべき人間である、よってこのように盛大な葬儀が行われるのだと思うようになるのは、自然の成り行きである。

31. 家族が亡くなった人の噂を言うと、宗教と道徳上の罪（Sin・莫）になる。亡くなった人の霊魂を苦しめることになり、生きていた親族を支えてくれなくなるという考え方があり。そこで大人は子孫の前で亡くなった人の噂をしない、良い行いのみ話すようにする。亡くなった親の話をする必要が生じたときは、その内容が、良き話の場合もしくは、悪い話の場合に関わらず、最初に親の霊魂に対して「霊が苦しんで困らないで下さい」と言ってから話を始める。このような方法は子孫の心に亡くなった祖父母がすばらしい人物であったという思いを持つようになる。

32. ウイグル族の中には、木曜日に洗濯すれば、宗教と道徳上の罪（Sin・莫）になるという考え方があり。その訳は以下のとおりである。

木曜日は、亡くなった祖父母、親、親族の霊が自家、子孫、親族の家に戻ってくる。彼らの霊が木曜日は一日中いらっしやるので、洗濯をする際の汚水がはねて、霊にかかったりすると、霊が悲しむと考えられている。その日は、ウイグル人の家族は親族の霊魂を迎えるため、油を沸かし、揚げパンを作りながら祈禱する。このことは子供達も知っている。

33. ウイグル人社会では霊魂に礼拝する習慣が保たれています。木曜日の朝、ラムダン祭り、コルバン祭りの朝、人々は子孫を連れて墓地に行き祖先の霊に礼拝する。その際も女性は泣きながら、塚の上に小麦などの穀物を供え、先輩達の霊が支えてくれるように求め、祈りをする。霊魂と墓地は《神聖》と《神密だ》と承知される。この世を去った人を生きている時に満足させてあげたら、幸せは自分に向かってくる。亡くなった方にしてあげた善意は自らの子孫に返ってくる。もし生きている内に満足させることができなければ、子孫が発展できなくなると、思っている。年長者が亡くなるまでに、なんとしても彼らを満足させることが、後輩の義務とされている。この世を去った後は、葬儀その前後の行事を行い、彼らの物質的及び精神的な恩恵に応えるようにつとめる。亡き人を墓地に送り、埋葬し、祈禱することは、子孫の心に深い印象をのこす。

まとめ 祖父母の心が子孫と結びつき、彼らの精神は連綿と受け継がれていく。子孫の成長する過程を観察する上で、かれらの将来の運命を予測することができる。祖父母は正しく育てている相続人を見ることで、心豊かになり、自身の望みか達成できることを喜ぶ。子孫達も年長者の恩愛を受け、心豊かになり、生命の尊さ、自身が背負っている責任の大切さを自覚する。祖父母もまた子孫を絶対的に信用する。このようにして祖父母は社会と子孫を結ぶ金の鎖となるのである。